

問題

A は、令和 2 年 7 月 1 日から実施されたレジ袋有料化についての社説です。B は、平成 28 年度に、海岸沿いの全国 10 地点（稚内、根室、函館、遊佐、串本、国東、対馬、五島、種子島、奄美）で行われた、我が国での漂着ゴミの調査結果の表とグラフです。下線部に注意しながら、A と B が示す共通の課題が何かを考察し、課題解決のために高校生ができる取り組みについて、あなたの意見を 500 字以上 600 字以内で具体的に述べなさい。

A. レジ袋の有料化 意識と行動変える一歩に

スーパーやコンビニなど小売店でのプラスチック製レジ袋が必ずから有料化される。購入した商品の持ち運びに使う手さげ袋は、大きさに関係なく無料配布ができなくなる。ただし植物由来の原料を 25%以上含むバイオマスプラ製や、海洋中で早く分解される生分解性プラ製は対象外だ。薄手のロール袋も規制対象からはずれた。

日本では年間 300 億枚以上のレジ袋が消費されている。全国民が毎日 1 枚、店頭でもらっては使い捨てている計算だ。一部は海へ流出し、誤って食べた生物が死ぬ危険性が指摘されてきた。有料化はその削減に向けた一歩である。

だが、課題も多い。レジ袋が使い捨てプラ全体に占める割合は 2%程度に過ぎない。ペットボトル、弁当の容器や菓子の袋、鮮魚などを乗せるトレーもリサイクルが追いつかず、削減が急務だ。今回の有料化を突破口にすべきだ。

新型コロナウイルスの流行は、レジ袋削減には逆風となりかねない。持ち帰りに対応する飲食店が増える中、汁漏れに強く衛生的なレジ袋の存在感が増している。利便性を優先してレジ袋を購入する人が増えれば、削減は先送りになってしまう。どうすれば使わずに済むか、工夫が必要だ。

大手スーパーなど既に有料化している事業者も多いが、手ぶらの買い物客が多いコンビニでは混乱が予想される。マイバッグの有無を尋ねたり、代金を徴収したりすることが混雑を招き、感染リスクを高めると懸念する声もある。

だが、削減は待ったなしだ。使い捨てプラの国民 1 人当たりの使用量で、日本は米国に次ぐ世界 2 位だ。各国が目標を掲げて削減に取り組む一方、日本は大きく出遅れている。

レジ袋の価格は事業者が独自に決められる。2～10 円と幅があるが、この収益をどう使うか企業の姿勢も問われる。スーパーのイオンは、昨年度のレジ袋の収益約 1 億 4000 万円を各地域の自治体に寄付し、環境保全に役立ててもらおうという。

資源を浪費せず環境を守る「循環型社会」の実現は、消費者の日々の積み重ねが鍵だ。有料化をきっかけに意識と行動を変えたい。

〔出典 毎日新聞 社説 東京朝刊 令和 2 年 6 月 30 日〕

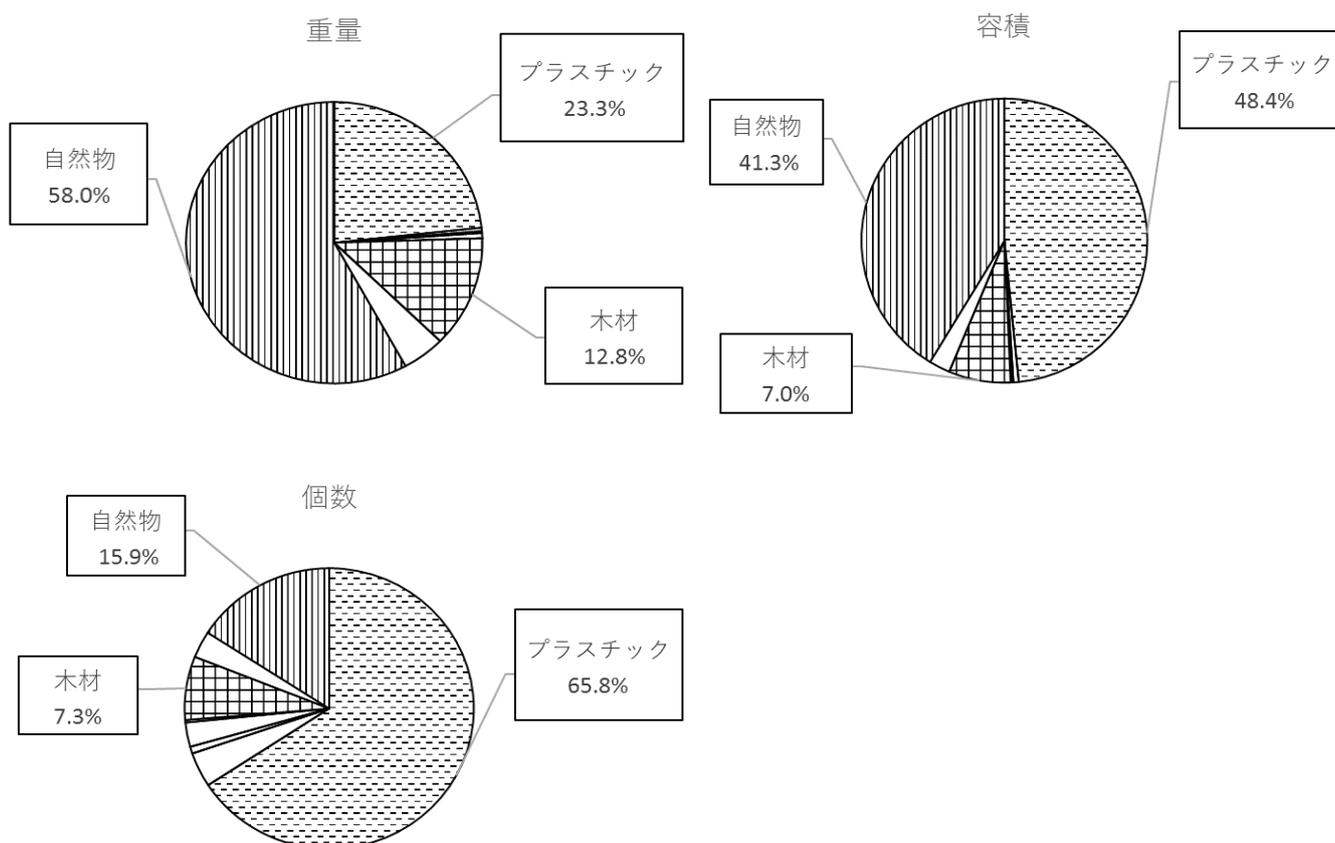
B. 我が国での漂着ゴミの調査結果の表とグラフ

○漂着ゴミ（プラスチック類のみ）の種類別割合

分類	重量	容積	個数
飲料用ボトル	7.3%	12.7%	38.5%
その他プラボトル類	5.3%	6.5%	9.6%
調味料容器、トレイ、カップ等	0.5%	0.5%	7.4%
ポリ袋	0.4%	0.3%	0.6%
ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ等	0.5%	0.5%	2.7%
漁網、ロープ	41.8%	26.2%	10.4%
ブイ ※	10.7%	8.9%	11.9%
発泡スチロールブイ ※	4.1%	14.9%	3.2%
その他漁具	2.7%	2.6%	12.3%
その他プラスチック(ライター、注射器、発泡スチロール等)	26.7%	26.9%	3.3%
	100.0%	100.0%	100.0%

※ブイ：位置を示す浮き、浮標

○漂着ゴミの種類別割合（重量・容積・個数）



〔出典 海洋ゴミをめぐる最近の動向 環境省 平成30年9月より一部抜粋〕